

## 向う見ずの米議会がロシアに“宣戦布告”——ロン・ポール

By Ron Paul

December 6, 2014 (Information Clearing House)

きょう、米下院は、私がかつて最悪の法制化と考えるものの一つを通過させた。H. Res 758 議案が、「ウラジミール・プーチン大統領下のロシア連邦の行動を、政治的かつ経済的支配を狙って近隣諸国に対し侵略政策を実行するものとして、強く非難する」決議書として通過した。

実は、この法案は 16 ページからなる戦争プロパガンダで、これは、もし彼らにそんなことができるとして、ネオコンでさえ顔を赤らめるようなシロモノである。

これらは私が米議会で、常にしっかり見張っていた類の決議で、それは、“無害な”意見の表明として通過する法案が、しばしば制裁や戦争につながるからである。1998 年、私は「イラク解放法案」に強く反対の意見を述べたことを覚えているが、そのとき言ったように、それは戦争につながることを私は知っていたからだった。私がこの法案に反対したのは、現在、私がプーチンや他のどんな外国のリーダーの讃美者でもないように、サダム・フセインの讃美者だったからではなかった。そうではなく、イラクに対する更なる戦争は、問題を解決するのではなく、おそらく事態を悪化させることを、私はそのとき知っていたからだった。その後何が起こったかは誰でも知っている。

今回もやはりこのままでは済まないだろう、しかも今度はもっと危険が高い、と私を考えるのはそのためである。ロシアとの戦争を挑発することは、全面的破壊につながりかねない！

この決議書（パラグラフ 3）は、ロシアの“ウクライナ侵略”を非難し、ロシアがウクライナの主権を侵したと断罪している。この声明は、そのようなことを証明する、いかなるものもなしに出されている。宇宙からライセンス・プレートを読むことのできる、我々の進歩した衛星があるのだから、このロシアの“侵略”のビデオや写真があつてしかるべきである。しかしそういうものは提出されていない。ウクライナの主権のロシアによる侵犯と言うなら、なぜ、この 2 月に起こった、選挙によるこの国の政府の転覆に、アメリカが参加したことが、ウクライナの主権の侵犯にならないのか？ 我々はみんな、國務省の役人たちがウクライナの米大使と共謀して、政府を転覆しようとしたテープを聞いている。我々は、米國務長官補佐の Victoria Nuland が、ウクライナの政権転覆に、アメリカが 50 億ドル使ったと

威張っているのを聞いている。なぜこれが許されるのか？

決議書（パラグラフ 11）は、東部ウクライナの人々が 11 月に、「詐欺的で不法な選挙」を行ったと非難している。なぜ、アメリカ政府が気に入らない選挙結果が出るたびに、それらが「不法」で「詐欺的」と呼ばれるのか？ 東部ウクライナの人々は自己決定を許されていないのか？ それが基本的な人権ではないのか？

決議書（パラグラフ 13）は、ウクライナにロシア軍がいたという証拠を、米政府が全く出していないにもかかわらず、ロシア軍がウクライナから撤退することを要求している。このパラグラフはまた、キエフ政府が、独立を求めている東部地区に対して軍事行動を続けることを求めている。

パラグラフ 14 は、ウクライナで墜落したマレーシア航空機 17 便は、「ロシアに支援された東部ウクライナの分離派軍の発射した」ミサイルによって撃墜されたものと断言している。これは全く不正確である。この悲劇の調査の最終報告は、来年まで発表さえされないことに加え、初段階の報告が、ミサイルがこの飛行機を撃ち落としたのではないと言っているからである。またこの初段階報告は——かかわったあらゆる国の参加によって行われたが——どちらの側の犯行とも言っていない。

パラグラフ 16 は、ロシアがシリアのアサド政府に兵器を売ったと断罪している。もちろんそれは、これらの兵器が、我々が敵だと言っている ISIS と戦うためのものだとは言っていない。一方、シリアの反乱軍に供給されるアメリカの兵器は、実は、ISIS の手に渡っているのである！

パラグラフ 17 は、ロシアがウクライナに対し、経済的制裁とアメリカが称するものを行った（「強制的な経済的措置」）と断罪している。これは、アメリカが繰り返しロシアに経済的制裁を行い、もっと増やそうと考えていることを度外視している。

パラグラフ 22 は、ロシアが 2008 年にグルジア共和国を侵略したと言っている。これは全くウソである。ロシアの味方でない欧州連合（EU）でさえ、2008 年のこの事件の調査で、ロシアに「不当な戦争を仕掛けた」のはグルジアであって、その反対ではないという結論を出した！ 米議会はどのようにこのような明白な虚偽を押し通すのか？ 議員たちは投票する前に、この決議文を読んでみようもしないのか？

パラグラフ 34 で、この決議文は滑稽にさえなり始める。それは、ロシア政府がアメリカのコンピューター・ネットワークに対する攻撃と称するものを行ったこと、米政府に関する

「不当に得た情報」を非難している。アメリカが世界各国に対して行っている、あきれるようなスパイ活動を、スノーデンによって暴露されたあとで、他者のこのような活動を批判する道徳的権威を、どうしてアメリカが主張できるだろうか？

ぞっとすることに、この決議書は、ロシアの国家援助によるメディアを、攻撃の対象として選び出し、それらは「世論を歪曲するもの」と言っている。米政府はもちろん、Voice of America や RFE/RL のようなメディアを、スポンサーとして援助し、また海外の無数の国の“独立”メディアを助成するのに、世界中で何十億ドルというカネを使っている。RT のような代替情報源がアメリカで禁止されるのも、遠い先ではなかろう。こうした法制化は、我々が何を買えるか、また買えないかを政府が決める——そしてそのような侵害を“自由”と呼ぶ——あの不幸な時代へ我々を追いやるものである。

この決議書（パラグラフ 45）は、ウクライナのポロシェンコ大統領に、独立を求める東部地域への軍事攻撃を再開する青信号を与え、「東部ウクライナの分離派民兵軍の武装解除」をするよう要請している。このような動きは、さらに多くの、何千何万という市民の死を意味するものである。

それを達成するために、この決議書は、アメリカ政府をこの紛争に直接かかわらせ、米大統領は「ウクライナ政府に、致命的・非致命的な防衛品目、便宜、またその領土と主権を効果的に防衛するのに必要な訓練を与える」ことを要請している。これは、アメリカの兵器がアメリカに訓練された軍隊の手に渡り、彼らがロシアとの国境で熱い戦争に従事することを意味する。これはグッド・アイデアに聞こえるだろうか？

この法制化にはまだまだ沢山の、馬鹿げた、かつぞっとするような文言があつて、すべてを論ずることはできない。しかし、この決議書で一つのおそらく最も問題となる箇所は、ロシア連邦によるウクライナへの「軍事介入」は「国際的な平和と安全保障にとって脅威となる」という文言である。このような言葉づかいは偶然ではない。こういう言葉は、この法制化の中に植え込まれた毒ピルのようなものであつて、そこから未来の、もっと攻撃的な決議書が出てくるであろう。結局のところ、もし我々が、ロシアを国際的な平和への“脅威”として受け入れるならば、どうしてそのような問題を見做すことができようか？ これは戦争へと向かう滑る坂道となる。

この危険な法制化は、きょう、12月4日に可決されたが、反対票はわずか10票だった！ たった10人の法制定者が、明白なプロパガンダと虚偽を使って、このような無謀な、武力によるロシア脅しを進めることに憂慮を示しただけだった。

ここに、この法制化に **NO** を投じた連邦議員の名をあげておこう。このリストに、あなた自身の代議員の名が見当たらなければ、なぜ彼らは、我々をロシアとの戦争に導く投票をしたのか、電話して訊ねてみるとよい。もしあなたの代議員の名がここにあれば、戦争屋たちに立ち向かってくれたことに、感謝の気持ちを伝えるべきである。

H. Res. 758 議案に **NO** を投じた議員たち：

1. Justin Amash (R=共和党 MI)
2. John Duncan (R-TN)
3. Alan Grayson (D=民主党 FL)
4. Alcee Hastings (D-FL)
5. Walter Jones (R-NC)
6. Thomas Massie (R-KY)
7. Jim McDermott (D-WA)
8. George Miller (D-CA)
9. Beto O'Rourke (D-TX)
10. Dana Rohrabacher (R-CA)

(ちなみに賛成票は 411 票)

(Ron Paul は有名な、元共和党下院議員、常に米政府の動きに警鐘を鳴らしてきた。)